

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 西高宮教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・効果測定を行うことで、対象の生徒さんの課題を明確にし、課題に沿った支援方法を考え、教室全体で統一した支援ができていること。	・他業務の兼ね合いでミーティングが実施できない日もあるが、トラブルや生徒さんの気になる様子はその日のうちに必ず所長に報告し、全体で共有する場をお受けている。	・支援内容の充実を図るため、長期休みを利用して効果測定を行う。 ・支援や振り返りの時間を確保する。
2	・特性にかかわらず寄り添い続け、継続的な関わりを大切にしている。	・困りごとのサインを見逃さず、行動のみで判断しないようになっている。 ・よくない言動の後、長い時間振り返りを行うことは避け、短く落ち着いた声で対応している。	・全職員が1対1の対応をできるようになる。
3	・保護者の要望に柔軟に対応できている。	・LINEで連絡を取り合うことで保護者と密接に関わることができ、情報共有がしやすい環境となっている。	・LINEや提供記録でのお伝えはもちろんのこと、場合によっては電話や対話でのお伝えにするなど、情報共有の手段を使い分ける必要がある。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員の送迎時間が長く、支援できる時間が十分でない日がある。	・送迎範囲が広く、学年も違うことから下校時間にばらつきがある。	・教室ごとにお迎えに行く学校を決める。
2	・地域との交流	・機会が設けられていない。	・外出イベントの機会を活用して、地域の方々と連携できるような企画をする。
3			